

2月の県内景況は好天や燃料価格下落等により、「売上高」「収益状況」など6項目のDI値が改善した。

情報連絡員による平成28年2月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は15.3%（前月比+5.1）となっており、「横這い」は37.3%（同-3.4）、「低調」とするところが47.4%（同-1.7）、業界全体の「景況感DI」は-32.2（同+6.8）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「在庫数量」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「設備操業度」の項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、繊維製品製造業、サービス業及び建設業は「快晴」または「晴れ」、卸売業は「曇り」、その他の業種は「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が39.0%（前月比+25.4）と増加しております（好転の回答0件、やや好転の回答23件）（製造業11、非製造業12）。また、変わらないが、47.5%（前月比-15.2）と減少しております。やや悪化、悪化の見込みは、13.5%（前月比-10.2）と減少しております。

平成28年2月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率98.3%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比										
食料品製造	-42.86	-28.57	0.00	28.57	-57.14	0.00	-28.57	-28.57	-14.29	-42.86	-28.57	-42.86
繊維製品製造	66.67	66.67	0.00	33.33	66.67	33.33	33.33	33.33	0.00	-33.33	33.33	33.33
木材木製品製造	-75.00	-50.00	-50.00	-25.00	-75.00	-25.00	-50.00	-25.00	0.00	-25.00	-75.00	-50.00
鉄工機械製造	20.00	-20.00	0.00	0.00	20.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-40.00	-20.00	-40.00
その他の製造	50.00	0.00	0.00	33.33	16.67	-16.67	0.00	-16.67	-16.67	-16.67	16.67	-33.33
卸売業	0.00	0.00	0.00	0.00	-25.00	-50.00	-25.00	-50.00	0.00	-25.00	-25.00	-25.00
小売業	44.44	0.00	11.11	22.22	33.33	0.00	-22.22	-22.22	-22.22	-33.33	0.00	-33.33
商店街	-16.67	-16.67	0.00	0.00	-33.33	-50.00	-33.33	-50.00	16.67	-16.67	-50.00	-50.00
サービス業	-14.29	28.57	14.29	14.29	-14.29	28.57	0.00	14.29	-14.29	0.00	28.57	14.29
建設業	0.00	-40.00	0.00	20.00	-20.00	0.00	0.00	20.00	-20.00	-20.00	0.00	20.00
運輸業	-33.33	-66.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-33.33	0.00	-33.33

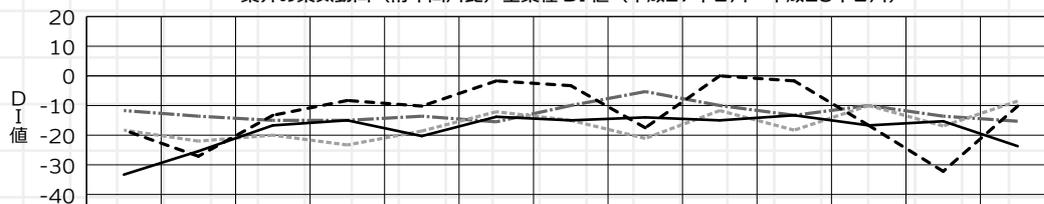
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- 曇り -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年2月～平成28年2月）



— 業界の景況
- - - 売上高
..... 収益状況
- · - · 資金繰り

	平成27年2月	平成27年3月	平成27年4月	平成27年5月	平成27年6月	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月
業界の景況	-33.3	-25.4	-16.7	-15.0	-20.3	-13.8	-15.0	-14.0	-15.0	-13.3	-16.7	-15.3	-23.7
売上高	-18.3	-27.1	-13.3	-8.3	-10.2	-1.7	-3.3	-17.5	0.0	-1.7	-16.7	-32.2	-10.2
収益状況	-18.3	-22.0	-20.0	-23.3	-18.6	-12.1	-15.0	-21.1	-11.7	-18.3	-10.0	-16.9	-8.5
資金繰り	-11.7	-13.6	-15.0	-15.0	-13.6	-15.5	-10.0	-5.3	-10.0	-13.3	-10.0	-13.6	-15.3

食料品製造業

<漬物>

漬物業界は原発事故以来、特にコメの放射能問題から風評被害が厳しくなり、経営が厳しくなっている。また、東京電力の賠償が一方的な理由のもと、福島県産の原料のみの賠償しか認められないとの話が多くなっている。実状は商品の裏面にある表示が問題であり、原料の福島県産という表示はないので、消費者は関係ないものである。中央会をはじめ、商工3団体には頑張っていたいただき、東電との交渉をお願いしたい。

<味噌醤油>

味噌醤油の出荷量は横ばいの状況。依然として低迷が続いている。海外依存の主原料は多少価格が低下したものの、為替・円安・遺伝子組み換えでない醤油原料大豆価格（プレミアム）等の動きが不安。加工米は飼料用米に移行の米政策による安定供給への影響が懸念される。

<菓子>

まもなく決算月だが、組合員、売上の減少が止まらず、厳しい1年だった。組合員の為、手に入りづらい材料の共同購入などもすすめたが、いい結果がでるまでは時間がかかりそうだ。

<酒造>

前月同様、吟醸酒、純米吟醸酒を中心に販売を伸ばしている。2月23日に東京の日本記者クラブで新酒の安心安全発表会を開催した。約50社のマスコミが来場し、福島県の取組について報告を行った。

<食品団地>

原油価格は10年来の安値であるが、消費状況は停滞しており収益状況は依然厳しい。また、従業員不足は続いており、短期・パート雇用でも厳しい。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

秋冬物の先行受注があり、やや好転している。来月に期待したいところである。

<繊維>

春夏物の生産が出回り、操業度が上向き。

木材・木製品製造業

<製材業>

2月は天候が安定していたことから、丸太の出材は好調なため、需給は緩和し、価格は下降気味。一方製品については、通常は不要期となるが、今年は例年以上に荷動きが悪いため、需要者側の意欲は弱く、必要なものだけを手当てする動きとなっている。このため、製材会社にとっては厳しい状況。

<外材輸入>

需要先は先行き不透明な中、当用買いが続いており、製材品の荷動きは鈍化している。円高による現状価格維持が課題となっている。

紙・紙加工品製造業

<紙器・段ボール>

紙器業界も例年になく、厳しい経営状況である。今まで消費税が上がるたびに、増税後は製品が売れなくなる。まして今度は税率が10%になるので、消費者の財布の紐は固くなるのではと思う。今年は我慢の年。業界全体で結束して頑張っていきたい。

印刷業

<印刷>

例年、3月の年度末に向けた動きが出てくる月だが、大きな動きは感じられない。年度末に期待したいところである。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上高の前月比 約6%の増
2. 当月売上高の昨年同月比 約7%の減
3. 今年度累計の昨年対比 約17%の増
4. 原因・状況 全般的に天気が良かった。除染関連工事が徐々に終了している。

<生コン>

平成28年2月の組合員生コン出荷数量は、154,551m³と対前年同月比1.9%の増。増加地区は東日本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等復旧・復興工事が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比1.8%の減、官公需が8.3%の増であった。

■民需の動向

対前年同月比 1.8%の減

①対前年同月比増加地区

<県北地区> 18.0%の増

大原総合病院、集合住宅新築工事等

<県中地区> 9.5%の増

寿泉堂香久山病院建築、工場、事務所工事等

<相双地区> 8.4%の増

東電社員寮、物流センター建設工事、原発保安対策工事等

<会津地区> 20.8%の増

倉庫、老人福祉施設建設工事等

②対前年同月比減少地区

<白河地区> 20.7%の減

化学工場、店舗新築工事等

<いわき地区> 22.4%の減

工場、物流センター、マンション新築工事等

■官公需の動向

対前年同月比 8.3%の増

①対前年同月比増加地区

<県北地区> 9.9%の増

霊山・庄司淵・腰巡トンネル、県庁、医療科学センター建設工事等

<いわき地区> 35.4%の増

港湾災害復旧、小名浜東港関連工事等

<相双地区> 9.7%の増

減容化施設工事、LNG基地工事、トンネル、海岸復旧工事等

<会津地区> 65.3%の増

復興公営住宅、高校改修工事、橋梁工事等

②対前年同月比減少地区

<県中地区> 37.1%の減

復興公営住宅、医療機器安全評価センター建築工事等

<白河地区> 40.0%の減

白河市民文化会館、石川町役場、小学校改修工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工>

(県中地区)

鉄骨、製缶受注量が全体で少ないように感じる。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、売上が前月比で3%減に転じたが、前年同月比においては55%増と、今月も良好な状況を維持した。累計でも前年比11%増となり、前年度を上回ることが出来そうな状況である。

卸売業**<卸売業>**

(県中地区)

2月も建築資材関連卸を中心に順調に推移してきた。しかし、今後については特需が1年くらいで終わるとの見方と、東京オリンピックまでは続くという見方に分かれている。いずれにせよ、この時期に体力を蓄え、今後のステップにつなげていくことが求められている。他の業種については特別変わった動きはなかったが、季節商材については、暖冬の影響で売れ行きが鈍かった。

<再生資源>

年度末を迎え、古紙の市中発生は増加傾向であるが、円高による輸出の低調と国内向けの値下げにより、売上高は増加していない。鉄・非鉄金属の価格は依然低調で、スクラップ業者は苦しい状況が続いている。

小売業**<共同店舗>**

(県中地区のOショッピングセンター)

景気が低迷している感があるものの、つるし雛のイベントで売上、来店客が増加し飲食・物販ともに実績は伸びた。次月は、卒業・入学・新社会人に係る経済効果に期待したい。

(県中地区のNショッピングセンター)

売上がなかなか伸びてこない。

<石油>

原油価格、為替レートが乱高下する中、元売仕切は上昇に転じた。しかしながら、小売価格は下落傾向となり、県内の一部地域では仕入以下の小売価格が散見され、死活問題となっている。

<青果>

毎年1月2月は取扱が伸びないが、今年も同じ状況である。暖冬で雪不足の影響が前月から続き、品物によっては単価の上昇はあるものの、ロスを出さない為にも取扱を最小限に抑えているので、取扱増には繋がらない。

3月は春彼岸もあるので、少しでも取扱増加につながる事を期待したい。

<電機>

暖房用として大型エアコンの動きが昨年よりはよくなっているが、家電業界全体では、部分的に差が出ている。

商店街**<福島市>**

例年に比較して天候にも恵まれ、昼夜問わず、やや賑やかな状況だった。ただし、例年に比べてであって、2月は様々な条件が重なって辛い月であることには変わらない。3月からの歓送迎会のシーズンから花見山観光・アフターデスティネーションキャンペーンに向けてよい流れを創っていきたいものだ。

<郡山市>

2月は天候もよく、来街者は増加傾向だった。商店街では、ここ数年頭を悩ましていたカラス対策を新た

に始めたところで、2月からその効果が見え始めている。3月末まで行い、どこまでの効果があるのかはまだわからないが、ある程度期待できるのではないかと思う。カラスの糞害は商店街の大きな課題だったが、3月はもっとよくなるように期待している。

<南相馬市>

2月に入り、地域イベントも少なく静かな雰囲気。南相馬市の商店街は防犯上閉店時間も早く、6時にはシャッター通りとなってしまうている。繰り返し商店街のイベントの必要性を実感している。

<会津若松市>

1月に続き雪の少ない月となった。暖冬の影響で冬商品はセール期に入っても低調で、その反面、お客様の目線が春物商品に例年よりも早く向いているようだった。周辺の空き店舗に新規出店が何件か続いているので、空き店舗ゼロに期待したい。

<いわき市>

例年の気温になった2月前半は、防寒、冬物の動きが出てまずまずの出足であったが、中盤からの春物投入も低い気温や降雪の影響で動きが鈍い。こうなると早く春らしい気候になってほしいと願うばかりだが、暖冬を見越しての用意なので、売上増には結び付かない。飲食店は新年会需要で活況。来月も寒さが続くようであれば、飲食店以外は厳しい2月となりそうな予感がする。

サービス業**<旅館業>**

(土湯温泉)

例年同様、低調な月であるもののプレミアム旅行券の利用などで宿泊入込は前年並みである。将来分の原因賠償金請求精算も済んだ事業所の声も聞かれ、資金繰り的には落ち着いているものと思える。

<理容業>

後半に寒波がきたものの、雪が降らない分よかった。どうしても天候に左右されるので、年末に調髪した人たちも来はじめ、まずまずの状況のようだ。他の方部にも聞いたが、同じような答えだった。いわき方部は好調のようだ。3月は卒業や後半には入社・進学等もあり、少し忙しくなる季節なので、期待している。

<廃棄物収集運搬業>

通常業務については2月は1月より若干の増加になった。

震災関連事業が10月からスタートした。当初より業務量が増加して推移している。

産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、当該事業として苦戦している状況。

雇用の安定化を図っているが南相馬以南の除染業務に人員を取られる状況がみられるようだ。一般の事業では太刀打ちできない金額の提示で短期間の業務でもと転職していく。対策に苦慮している。

今後の展開として電力の自由化に伴いバイオマス発電事業へ参画の話が来ている。新規事業に取り組んでいきたい。

建設業**<建設業>**

(県一円)

平成27年4月～平成28年2月までの発注者別の発注状況(金額ベース)は、県は前年を上回っているものの国・市町村等は前年を下回っており、総額においても前年を下回っている状況。

(県南地区)

除染業務は作業が完了した地区が多くなってきているが、新たな工区の着工も見られる。土木工事は減少しており、建築工事は公共事業が少なく、民間建築も減少傾向である。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請とも減少。前年同月累計対比で給水申請が増加し、排水申請は減少している。

<専門工事>

天候に関しては『異常』と表現するしかない状況が継続している。季節感や地域性の薄い人たちからは「天候が良くて仕事が進む」という声も聞かれるが、冬には冬の仕事の進め方があり、側から見て順調に見えても「いつもと違う」事は結果としてどこかに歪みを産むものだと考える。復興についても、5年と言う区切りを迎えるに当たり、復興事業が着工又は完成してしまっただけになってメディアが良し悪しを論じ、復興

事業そのものが問題だと思われるような発言を行うなど、我々も自ら情報を正確に発信する必要があるのではないかと感じている。3月11日と言う区切りの日を迎えるに当たり、私たちはどこを向いて、何に向かっているのかをきちんと認識する必要があるのではないだろうか？

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

燃料が低価格で推移しているため収益確保はできており、組合員の業況は概ね良好に推移しているが、円高の影響を受けやすい荷主との取引も多いため今後の動向を把握することが難しい状況にある。

<ハイヤータクシー>

うるう年により1日増えたことで、前月並みとはなったものの、低調状態で厳しい状況が続いている。